

創発の前提条件①

別紙

地域外の人的ネットワーク・クラウドの形成、維持

飯田との関係性・  
結びつきの構築

大学教授・  
研究者  
【学輪IIDA】

産業人  
【企業懇話会】

官庁関係者  
【国等審議会、委員会他】

有識者  
【各種専門  
研究機関】

ふるさと会・  
同窓会

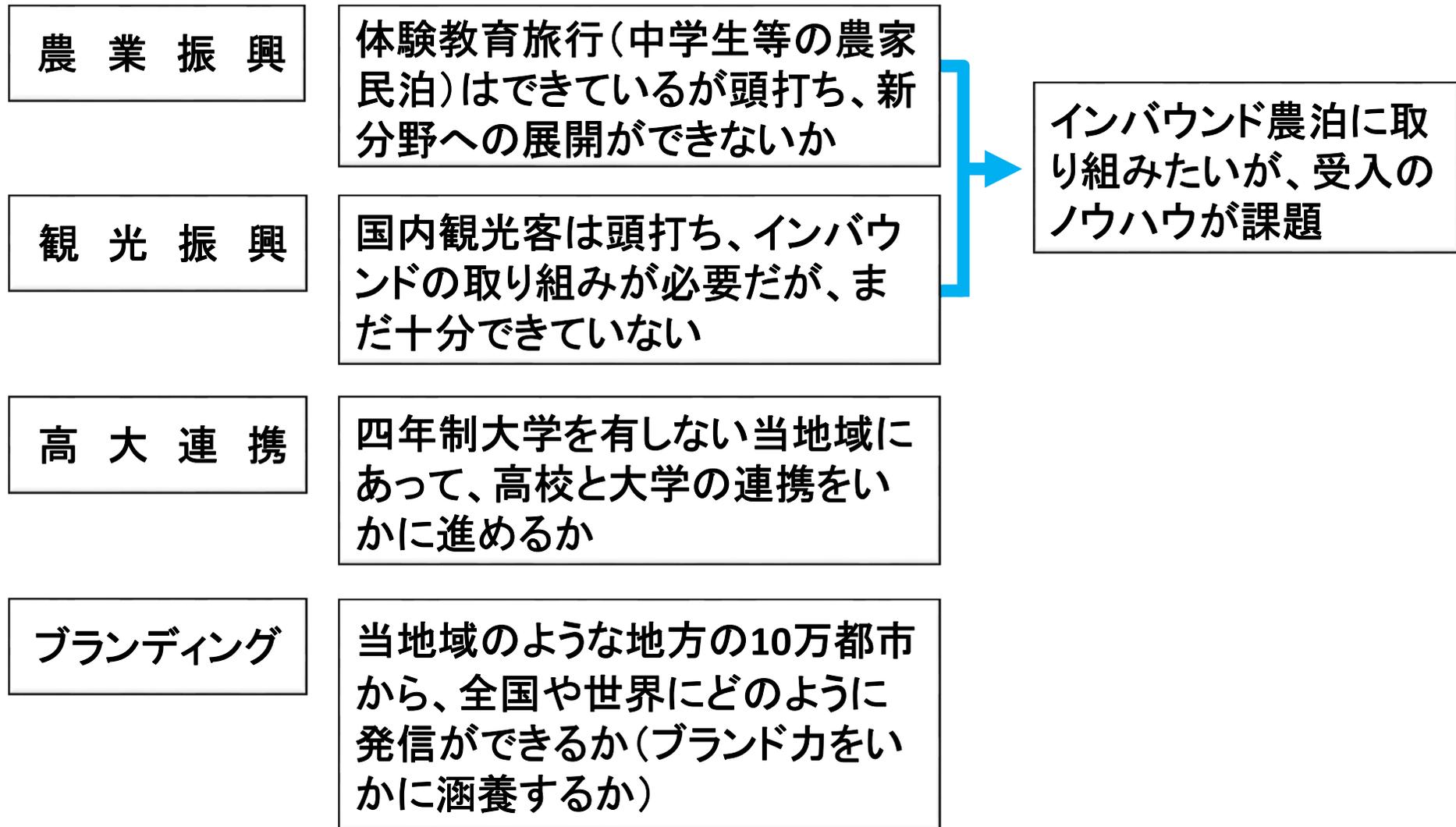
・飯田への様々な提言  
やプロジェクトの提案を  
いつでも出してもらえる  
状態を保つ

・そうしたプロジェクトに  
対してできるサポートを  
いつでも提供してもらえ  
る状態を保つ

## 創発の前提条件②

課題の把握: すぐに解決できなくても常に意識している状態を保つ

【事例: インバウンド農泊の事業化(現在進行中)】



## 共創によるイノベーションの創発プロセス②

飯田に縁のあるLBS関係者からの提案(昨年11月)



(提案)

**「ロンドン・ビジネス・スクール(LBS)の学生に農泊を体験させたい」との提案 約80か国、128人**

**農泊関係者に  
受入を提案**

受け入れるためのノウハウを取得しよう  
(農家の皆様のご理解を得る)

**農泊関係者に  
受入を提案**

**地元高校生の  
参加**

外国人と交流し、国際感覚を  
涵養しよう  
(地元高校の協力を得る)



(実行までの工夫)

**農泊関係者に  
受入を提案**

**地元高校生の  
参加**

**京都外国語  
大学生の支援**

農家とLBSの学生との橋  
渡しを担ってもらい、飯田と  
の関係性を強める  
(学輪IIDAの機能発揮)

共創の場



## 【イノベーション創発のKey Point ～飯田のバスケット方式～】

提案されたプロジェクトをバスケットに見立て  
従来から意識している課題の解決につながるかどうか  
ボールを入れるような感覚でシミュレートして議論を重ねる

提案されたプロジェクト＋課題への対応

付加価値創造につながることを確認し、行政として予算計上  
(3月補正予算200万円)

↑  
ワイズ・スペンディング

↓  
3月29・30日実施予定

## 共創によるイノベーションの創発プロセス③



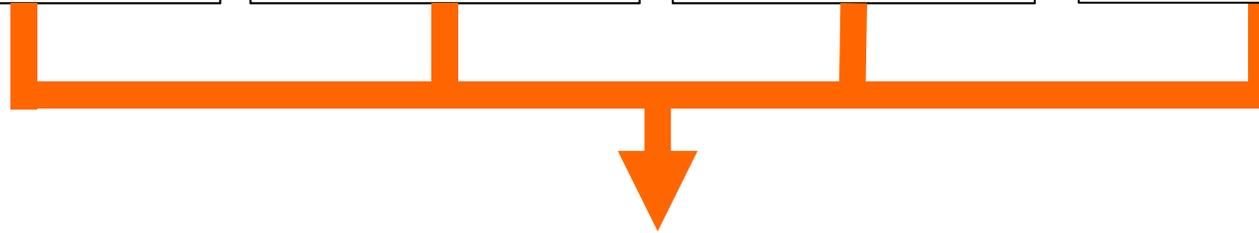
(点検・  
評価)

①農家  
外国人受け入れの  
ノウハウを得られる  
契機になったか

②高校生  
LBSの学生や大学生  
との交流によって、視  
野を広められたか

③大学生  
橋渡し役を通じて  
飯田との関係を深  
められたか

④飯田ブランド  
多くの国に飯田の  
発信がなされたか



本プロジェクトを契機に次のような展開が期待される

【インバウンド農泊の本格的な事業化】

・大学生の橋渡しが無くても運営できるようにしていく

【大学生と高校生の交流プログラムの推進】

【海外への飯田ブランド発信力の強化】



(改善)